

# シンガポールにおける外国人花嫁ビジネスの実態

坂本 砂智

1. はじめに
2. シンガポールの歴史
3. 多民族国家シンガポール
4. シンガポール社会の結婚状況
5. 女性の社会進出
6. 外国人花嫁ビジネスの状況と背景
7. 消費者側の男性
8. 外国人花嫁
9. 外国人花嫁仲人代理店
10. 外国人花嫁仲人代理店のそれぞれの特徴
11. 外国人花嫁とシンガポールの花婿のケース・スタディ
12. 外国人花嫁ビジネスの中での女性の扱われ方
13. 様々な問題点
14. おわりに

キーワード：外国人花嫁ビジネス、外国人花嫁、外国人花嫁仲人代理店

## 1. はじめに

本論の課題は、シンガポールでの外国人花嫁ビジネスの実態と問題点を明らかにし、何らかの解決策を模索することにある。外国人花嫁仲介業者のビジネスの仕方を様々な形で取り上げ、消費者側の夫と外国人花嫁との出会いから結婚に至るまでの状況を具体的にあげる。また、外国人女性がシンガポールの男性と、あるいはシンガポールの男性が外国人女性と結婚を希望する理由などを探り、そこから発生する様々な問題を指摘し、なんらかの解決方法を考える。

## 2. シンガポールの歴史

1819年、1月、人口150人だけのライオンの町を意味するシンガプラという島に英国東インド会社の書記官、トーマス・ラッフルズが上陸した。1824年には英国の植民地となり、名称も英語らしい響きのあるシンガポールに改名された。英国の植民地制度の下で、多数のインド人、中国人労働者が入植し働くことになった。

1942年には、日本軍に英国軍が破れ、日本が数年シンガポールを支配下に置き、シンガポールを昭南島と名づけた。が、その間に抗日運動が発生し、日本軍はその支援者や反日ゲリラなど中国系住民を集め、約二万人の人々を大量虐殺した。

1945年、第二次世界大戦が終結し、日本が敗戦に追い込まれ英国が植民地支配を継続することになる。が、地元住民の英国への反感は強く、諸外国からの反対もあり、英国は植民地支配を放棄した。

1957年、11州によって構成されるマレー半島は、マラヤ連邦として英国から独立したが、59年、シンガポールは英国の自治領になった。しかし、63年には、マラヤ連邦は、シンガポール、サラワク、英領北ボルネオ（サバと改名）と新たにマレーシア連邦を結成した。しかし、マレー人優遇政策をとろうとするマレーシア中央政府と（UMNO）と中国系中心のシンガポール人民行動党（PAP）との関係が悪化し、シンガポ

ールはマレーシア連邦から追放され、都市国家として分離された。

独立後、首相にリー・クアンユーが就任した。彼は一党独裁体制下で、天然資源の少ないシンガポールを東南アジアの貿易中心地として通商都市国家に発展させた。また、職場と住居が隣接した工業団地の整備やHDBと呼ばれる公団の普及を進め、外資系企業に誘致し、チューイングガム（を噛むこと）の禁止などのマナー管理から麻薬所持者の死刑などの厳しい刑までを含む政策をとった。その結果、2007年には一人当たりのGDPは日本を越し、3.5万ドルになり、アジアのトップの座についた。<sup>1</sup>

### 3. 多民族国家シンガポール

シンガポールは現在人口約424万人。中華系76.0%、マレー系13.7%、インド系8.4%、その他1.8%からなっており、宗教も、仏教、イスラム教、キリスト教、ヒンズー教、道教など様々だ。マレー語、英語、中国語（様々な方言）、タミール語などの言語が使用されており、多文化多言語多民族多宗教社会の中で、様々な民族、人種が一緒に生活している。<sup>2</sup>

### 4. シンガポール社会の結婚状況

最近、シンガポールの男性と外国人女性との結婚の話題が新聞を賑わせている。シンガポール当局が公表した統計では、2008年に結婚した夫婦2万1042組のうち39%の8136組が国際結婚だという。その中でもシンガポールの男性<sup>3</sup>と外国籍の女性との結婚が多いが、とりわけ中国

から来た女性との結婚が多い。10組のうちの4組が国際結婚となり、半数にも追いつきそうな勢いだ。<sup>4</sup>

シンガポールでは、40歳から44歳までの低学歴の男性の25%が未婚なのに対し、大卒の男性では10%しか未婚者はいない。女性はその反対で、低学歴の未婚者は10%しかいないのに、大卒の場合は25%が未婚だ。<sup>5</sup>経済力がある大卒の男性は結婚しやすい傾向にあるのに対し、大卒で安定した仕事を持つ女性の多くは経済的安定のために結婚はせず、パートナーシップやロマンティックな愛を求める。そのため、シンガポールの大卒の女性は、より平等な関係を好む欧米男性と結婚したがる傾向にある。

日曜タイムズ（The Sunday Times）紙によると、ミスター・キューピッド（MR.Cupid）仲人代理店では、五年程前にはほとんどの男性客が中学二年程度の学歴だったが、今では10人のうち7人の男性客が大卒だという。35歳で中学二年までの教育を受けた代理店のホン氏は言った。「男性の両親と二人の姉妹と公団に同居したい女性はシンガポールにはほとんどいない」彼自身は2004年22歳のヴェトナム人の農家の娘と結婚した。二人の息子は十七ヶ月と七ヶ月だ。「私の妻は子どもの世話と家事をする。彼女の望みはシンプルだ。暴力を振るわず、他の女性に気を取られずに自分のことだけを考えて。それだけだ」<sup>6</sup>

ヴェトナム人花嫁を紹介するライフ・パートナー（Life Partner）仲人代理店は1996年に作られたが、始めは一年に10件の結婚が成立しただけだった。しかし、今では一ヶ月に何件も成立しているという。普通、30代、40代の男性に

1 「シンガポールの歴史」『ウィキペディア フリー百科事典』

2 『2007年データブック・オブ・ザ・ワールド』二宮書店、2008

3 シンガポール国籍あるいは永住権を持った男性

4 結婚率、離婚率は、華字紙の聯合早報2009年6月18日、を参照。

5 Goh Chin Lian, *The Sunday Times*, Oct 1, 2006

6 Goh Chin Lian, *Why foreign brides are hot...*The Sunday Times, Oct 1, 2006

20代の女性を紹介することが多い。

シンガポールでは結婚登録には二種類ある。一般のカップルは宗教上の儀式によらず公吏が行なって役場に届ける、届け出結婚をするが、イスラム系の人々はイスラム教徒結婚登録所に届け出をする。シンガポール政府の統計によると、国内の異文化、民族間の結婚も国際結婚と同様増加している。

## 5. 女性の社会進出

シンガポールには女性行政を行う法的機関はないが、法的整備として憲法第12条に法の下での平等、雇用法第9章に妊娠、母体の保護の規定がある。また結婚、離婚に関わる両性の権利義務、性的暴力犯罪から女性、子どもの保護をうたう女性憲章がある。

学校ではエリート育成のため、能力別学級が編成され、性別に関係なく徹底した英才教育が行われている。18歳の健康な男子は二年間の軍隊、警察、消防などの分野での服務義務があるため、そのような義務のない女性の方が高学歴傾向にある。この社会では、能力のある女性の社会進出が支えられている。高学歴労働者における年齢別男女比は20代と30代が男女半々だ。<sup>7</sup>

シンガポールでは、女性の社会進出が欧米並に進んでいるが、保育園や老人施設などの福祉施設がない。そのため働く女性を支えているのが、家事、育児、介護をする住み込み外国人メイド制度である。全世帯の12.25%（8軒に1軒）が14万人ものメイドを雇っている。彼女たちはインドネシア、フィリピン、タイ、スリランカ、中国などからの出稼ぎ労働者だ。法律上の労働

時間制限もなく、朝から晩まで、一日12、3時間働くメイドも少なくないが、彼女たちの一ヶ月の給与は\$270（約20,250円）から\$350（約26,250円）であり、シンガポールの労働者の給与とは比較できないほど低い。<sup>8</sup>

## 6. 外国人花嫁ビジネスの状況と背景

外国人花嫁は、仲介業者を通じて様々な国の男性に紹介される。結婚は花嫁が海外移住する手段になっている。また、儲かるビジネスとして地球規模の広がりを見せてきた。しかし、外国人花嫁の状況には商品の交換と売買の問題がある。男性は消費者として、仲介業者に多額の金を払い、女性を商品のような形で受け取る。そこには、様々な女性差別問題が発生しているが、消費者側の男性は、経済的にも精神的にも自立した自国の女性の代わりに、発展途上国から従順な女性を妻にしようとしている。これは、過去数十年における、ジェンダー役割の変化の中で、女性がより自立したことに対して遅れを取ってきた伝統的男性の反応とも見える。消費者側が豊かな国の男性であり、商品側は貧しい国の女性であるという経済格差が男女の関係に深い影響を及ぼしている。この傾向は拡大しつつある経済格差によってさらに加速化させられているように見える。

## 7. 消費者側の男性

外国人花嫁仲人代理店にやって来る男性は、一般的に、未婚、低所得、低学歴の人が多く、専門職を持つ男性もかなりいる。大多数は中国

7 「シンガポールにおける女性の地位は高いか」『Clair 刊行物』自治体国際化フォーラム 1998.12月号

7 高学歴労働者の40代の男女比は9：1だ。「シンガポールの歴史」『ウィキペディア フリー百科事典』

8 シンガポール政府のエリート女性を働かすための政

策。『シンガポールメイド事情

That's Shibata Town—シンガポールからの手紙』  
ww.jet.ne.jp/^seto3104/sigpo/sp13.htm. \$（ドル）はすべてシンガポール・ドルのことでUSドルではない。シンガポール・ドルは1ドル約75円。

系の40代で、中には離婚経験者や成長した子がいる者もいる。自国の女性たちは、野心がありすぎ、男性に過度の要求をし、夫と同等の権利を持つとするため妻にしたいくないと彼らの多くは考えているようだ。外国人花嫁は一般的に伝統的で、家庭的で従順だと信じ込んでいるからだ。中には、自分を介護させるために、家政婦より安上がりな花嫁を求めてくる老人もいる。

## 8. 外国人花嫁

花嫁には共通の特徴がある。彼女たちの多くは、中国、マレーシア、ヴェトナムなどから来ている。女性たちが外国人花嫁になろうとするのは、貧困、生活状況の悪化、高失業率などのためであり、自分たちの生活を少しでも改善したいと思っているからだ。仲人業者の一人によると、ヴェトナム人女性の場合は、男性の暴力から保護されていないのが理由だという。ヴェトナムでは妻に暴力をふるっても、夫は告発されずにすむ。業者が紹介する女性のほとんどが18歳から25歳までだが、中には30代前半の女性もいる。女性のほとんどは基本的な教育を受けている。中には大学教育を受けた者もいる。花嫁は家族、忠実、献身などの伝統的価値観を持ち、結婚の失敗や離婚による屈辱を避けたがる。

厳しい状況の中で暮らしてきた女性たちにとって、経済的な豊かさは大きな魅力だ。豊かな国の男性と結婚することが、彼女や彼女たちの家族の生き残りを保証する方法なのだ。

外国人花嫁は、危険な状況に置かれることも多い。例えば、仕事をすることや友だちと付き合うのを夫が許さずに、妻を社会的に孤立させたり、夫への経済的依存と強制送還や離婚への

恐怖と恥から、妻は暴力を振るわれていても我慢することが多い。<sup>9</sup>

## 9. 外国人花嫁仲人代理店

シンガポールには約70の代理店があるが、その多くは、夫と妻のチームによって経営されている。その中には、自分たち自身が同じような代理店業者によって結ばれたというカップルもいる。当初は、自国の独身男性に、魅力的で献身的な女性を紹介しようという理想もあったらしいが、現在は、簡単に儲けられるビジネスとして広がりつつある。

一般に、代理店業者は、消費者側の男性と同様、男性を大黒柱にした従順な妻が家事、育児を行うという伝統的な家族価値観をもっている。また、自国の自立した女性に不満を持つ男性に同情するかのような広告を出し、従順で、献身的で、夫を熱心に支える魅力的な妻というイメージを強調し、男性客を引き付けている。

業者の多くはシンガポールのチャイナタウンに事務所を持っている。今まで男性に人気があったのは、団体で行く花嫁選びツアーだ。男性は前もって写真などで気に入った女性を数人選び、現地でその女性たちとデートをするか、現地で条件に合う女性を数人選び、数日間デートする。その中で最終的に一人を選び、女性の家族と会う。

最近では、男性が女性の住む国に行く代わりに、シンガポールで男性が写真とプロフィールから気に入った女性を選び、海外にいる女性にも男性のプロフィールを伝え、お互いに興味があれば、その女性と契約<sup>10</sup>を交わし、その女性をシンガポールに呼ぶケースが多くなっている。女性はビザを申請せずに14日間滞在できる

9 May Bee Lay, *I was duped in sex slaves scam*. The Electric new Paper, Aware new, Jan 16, 2006

10 契約といってもほとんどが口約束である。

訪問ビザで来るが、その間に女性は男性によって選ばなければ結婚はできない。もう一つの方法は、代理店があらかじめ女性を選び、シンガポールに呼び、滞在させ、そこで、男性に女性を選ばせる方法だ。

女性を男性に紹介するだけでなく、業者によっては、結婚後にも女性にシンガポールの生活スタイルについての情報提供などをする所もある。例えば、ある業者は、すでに結婚している中国人女性たちを新しい花嫁に紹介したりして手助けをしている。

シンガポールで花嫁を選ばせる業者は、女性に化粧の仕方や洋服選びなどを教える。また消費者側の夫には、花嫁の国の習慣、伝統、シンガポールへの移住の仕方やビザについてのアドバイスをするほか、医師を紹介し、花嫁の心身の健康チェックをさせる。業者が花嫁の処女性を売り物にしている所では、病院で処女検査などをさせる。

基本的には消費者側の夫が仲人、結婚にかかる費用を負担するが、花嫁が一部支払う場合もある。夫が払う費用は、長距離電話代、飛行機代、翻訳代、通訳代、病院検査代、滞在費、花嫁と家族への贈り物、祝宴や花嫁のビザ延長などの入国管理局や移民局への費用などを含むものでかなり高額だ。海外での花嫁選びツアー代金は\$15,000から\$20,000だが、シンガポールで選ぶ場合は、ツアー費用などが必要ないので\$10,000から\$15,000で多少安くなる。花嫁が決まると消費者側の夫は、業者の援助で花嫁が移住できるように、スポンサーになって訪問ビザの延長申請をする。長期訪問ビザは、結婚の証明や経済的証明を出せば、移民局から許可が得る。次に、夫は妻の永住権を申請する。<sup>11</sup>

11 夫に経済力がないと永住権は出ない。May Bee Lay, *I was duped in sex slaves scam*. The Electric new Paper, Aware new, Jan 16, 2006

12 結婚相手が見つからない女性を援助する代理店はない。Dawn Chia, *No Need to Pay High Dowries*, The

## 10. 外国人花嫁仲人代理店のそれぞれの特徴

ミスター・キューピッド国際仲人代理店は、シンガポールのイスラム教信者の男性たちが、高い結納金に困っていると聞きこのビジネスを始めたという。イスラム教男性信者が支払う結納金は少し前でも、結婚式の祝宴費や衣装代なども含めると、\$15,000から\$20,000かかった。しかし最近では、結納金の値段が跳ね上がり、\$30,000にもなっている。これは一般の花婿には高い額なので、安く花嫁を紹介して助けたいのだという。<sup>12</sup>

この仲人代理店のディレクターは語った。「私たちは人々に結婚や子どもの出産を支援することで政府の考えを奨励しているのです。我々は、結婚にかかる経済的重荷、特に、車や住居や他にかかる費用を軽減するために、仲人代理店を経営しています」

仲人費用は正月の時期は、中国のフーチエンから来る花嫁に限るが普段より費用は安くなる。「\$1パッケージ」とは、客がまず代理店に\$2,000を払い、フーチエンで花嫁を選んでから、\$1,999を受け取る。花嫁が見つからないときは\$8,000払うが、見つければ、後の\$6,000は利子なしで、毎月\$600を10ヶ月払う。公務員の場合は一ヶ月\$400を15ヶ月払う。結婚一年以内に子どもが生まれれば\$1,000、2年以内なら\$500のボーナスが出る。

この仲人代理店の場合は、女性が男性と結婚登録するまで女性の世話をする。結婚前に、一回だけ男性は女性とデートできるが、スタッフが同行する。<sup>13</sup>

New Paper, Jan 2, 2006

13 この代理店は他の代理店と比べてかなり慎重だ。Dawn Chia, *Have a child in a year \$1,000*, The Electric New Paper, Feb 20, 2007

サンデイ・タイムズ紙によるライフ・パートナー仲人代理店の取材で、女性を選ぶときに使う質問表の内容が明らかになった。その中には、身体的なものから精神的なものまでであるが、中には体の傷の有無、胸のサイズ、恥毛の量などプライバシーの侵害につながるような質問もある。この代理店のオーナーによると、処女女性のみがこの代理店に申請でき、それは医者に証明されなくてはならないという。彼は言った。「パスポートを持っていない女性の方が旅慣れしてなくて、町の女性よりシンプルでよい」女性たちは北京語を学びながら待つ。他の代理店では女性たちに部屋を借りて泊まらせるのだが、この代理店では、処女の女性たちを保護するために、オーナーの家に泊めるのだという。

この代理店のオーナーは言う。「もし男性客が疑わしいと感じたら、その男には女性を紹介しない。しかし、ほとんどの男たちは真剣に妻を捜している。\$10,000は安くない。まじめに探してなければ、そんな金を払うはずがない」<sup>14</sup>

女性によってはシンガポールに到着した日に男たちに妻として選ばれる者もいるが、そうでない女性たちは14日間毎日選ばれるのを待たねばならない。誰も見つからなければ、マレーシアに送られるという。

ヴェトナム花嫁国際仲人代理店では、花嫁にはたくさんの質問が待っているが、シンガポールの男性には三つの質問しかしないと43歳のマーク・リン氏は言った。

1. 結婚していますか？
2. 妻を経済的に扶養する能力がありますか？
3. 妻と仲良くできると思いますか？

上記の三つだけに答えればよく、証明書を出す必要はない。代理店側はただ男の言葉を信じるだけだという。「女性と違って、男性は医療

検査を受ける必要もなく、フェアではないが、男性客に強制はできない」と代理店のオーナーは言う。

メイル（Mayle）結婚代理店のディレクターは、「男が疑わしいと感じたときにだけ結婚登録所で、本当に結婚していないかどうかチェックする」という。時には、男性客の両親に会ったり、男性が花嫁を家に連れて行ってからも、定期的に女性に電話したり、少なくとも一ヶ月に一度はチェックするという。

アジア・国際結婚&フレンドシップ代理店では、妻になるべき女性はスタッフと一緒に男性の家に行き、両親などに会い、環境を見るという。

ファースト海外国際（First Overseas International）仲人代理店のオーナー、フランシス・トー氏は、15周年記念のお祝いのため、中国のハイナン島から15人の花嫁をシンガポール人男性に無料で提供した。彼は言う。「中国人花嫁を\$1の前金で、みたいな宣伝文句はあるよ。最近来た15人の花嫁は21歳以上でね、少なくとも中学までの教育は受けているし、ウエートレスや事務員として働いた経験もあるけどね。決してこのような派手な宣伝には反対しないよ。彼女たちは、相手が見つかるなら、将来の夫のために、低飛行してもいいって言ってるよ。これはモノの宣伝とは違うし、女性たちを賤しめてはいない。他の代理店によっては、花嫁を障害者男性や、病気の年老いた男性と結婚させることもあるが、それは、シンガポールのイメージを悪くするだけだ。うちの代理店はそんなことはしていない」結婚が決まるたびに、50%かそれ以上の利益があるという。<sup>15</sup>

この仲人代理店では、中国花嫁の紹介に\$8,800を徴収する。これは手数料、見合い料、

14 The Sunday Times, Jan 1 2006

15 Dawn Chia, *Gimmick. It's just business. AWARE slams offer as akin to selling women.* Aware.

中国でのシンプルな披露宴にかかる費用だ。カップルが結婚に同意したときに、代理店の役割は終わる。頼まれれば、追加料金\$3,000で書類をまとめる。男性は家族を養える安定した仕事や収入がないとだめで、家族も結婚に同意することが必要だという。

シンガポールで「ウオークイン・セレクション（立ち寄り花嫁選び）」という言葉が有名になったのは、花嫁探しの海外ツアーに行くより、花嫁を安く見つけれられるからだ。ガラス越しに若い女性たちが椅子に座っているの見える。そこを通り過ると、人々は女性たちを品物のように見る。男たちは言う。「あの子悪くないな」女性たちは、14日間そこに閉じ込められる。

ヴェトナム花嫁国際仲人代理店のオーナーは言う。「女性たちをじろじろ見ても構わないさ。男たちが女たちを見つめなければ選べないじゃないか」男性客たちは、女性に幾つかの質問をしたりして、北京語が話せるかどうか試したり、立ってぐるっと回って見せるようにいう。代理店では、女性に化粧方法を教えたり、男性に気に入られるような服の選び方などを教える。この代理店では、花嫁の家族にUS\$200から\$300を与える。少しに見えるが、家族が願っているのは娘がすこしでもよりよい生活をするということだ<sup>16</sup>。

## 11. 外国人花嫁とシンガポールの花婿のケース・スタディ

ケース1：25歳のイスラム系シンガポール人男性アマッド氏<sup>17</sup>は技術士で月給は\$2,000しかない。シンガポールで同宗教の女性と結婚する

ときには、かなりの結納金を払わねばならないので、費用が少なくてすむミスター・キュービッド国際仲人代理店を通して、彼は、結納金と結婚式費用に\$12,000かかる五日間のヴェトナムお見合いツアーに出かけた。

アマッド氏は、2005年12月12日にヴェトナムに到着し、ホーチミンから車で三時間の村で七、八人の女性に会い、その二日後、一番可愛く微笑んだ21歳の女性を選んだ。通訳を通して、家族や背景について話した。彼女の母親と村長によれば、彼女は敬虔なイスラム教信者で忠実な娘で家事が得意だという。その村で伝統的な結婚式を挙げ、次の日、イスラム教のパーティを開いた。数日後、彼は一人でシンガポールに帰国し、法的手続きが終わる2006年2月頃まで、彼らは電話で簡単な英語やヴェトナム語を使って話をした。待機中に、彼女は英語と北京語のレッスンをホステルで受けた。シンガポールで結婚登録を済まし、彼の家族や友人を呼んでお祝いをした。シンガポールの女性と結婚するのに比べ、\$6,000は節約できたという。彼は以前に女性と付き合ったことはないが、次のように言った。「僕はシンプルな女性とシンプルな結婚式がしたかったし、結婚式や結納金にあまり金をかけたくなかった。デートに時間を無駄にせず、自分のライフ計画を実現するために、素早く家族作りを始めたかった。自分にとって配偶者を見つけることは運命の問題だ。どのくらい相手を知っているかではなく結婚にどのくらい身をゆだねるかが問題だ」<sup>18</sup>

ケース2：36歳のエリック・タン氏は八年間付き合った恋人がいたが、結婚してくれないので別れた。その後、国際花嫁の新聞記事を読んですぐ申請した。代理店に紹介された18歳のペ

16 代理店の儲けが多いわりに、花嫁の家族に払う額は少ない。Vietnam Brides' Huge Gamble, The Sunday Times, Nov 27, 2005

17 国、地域によってはアフメッドと発音するときもある。

18 Dawn Chia, No Need to Pay High Dowries, The New Paper, Jan 2, 2006

イ・ロウ・チアングとすぐに結婚し、六ヶ月後に第一子を妊娠した。彼はデートに時間を費やすよりも、早く家族を作り始めて安定した結婚生活を送りたかったという。

ペイさんは次のように語った。「彼は頼りがいがあるように見えたが、お互いに見知らぬ者同士だし……だけど私の姉もシンガポール人と結婚しており、ここの男性は信用できるし、妻の扱いもいいと聞いていたので、運命に任せることにした」<sup>19</sup>

ケース3：メカニカル・エンジニアのピクター・チュー氏34歳は、ヴェトナム人女性オン・イエンさん19歳とライフ・パートナー仲人代理店で出会い、一ヶ月後に結婚登録をし2007年初めに祝宴をした。チュー氏が仲人代理店に行ったのは、シンガポールの女性は彼の両親と住みながらないし、生活習慣が合わないからだという。仕事が忙しいので、ヴェトナムに行く暇がなく、「ウオークイン・セクション」に参加したという。「このように花嫁を選んで別な女性を賤しめることにはならない。同じような方法で結婚した友人もいるし、両親も疑問を感じていない。今、ヴェトナム語を学んでいる。妻とは絵を描いたり、ジェスチャーや北京語を少し使って会話をしている」

妻のイエンさんは「ヴェトナムには、たくさん酒を飲んだり、ギャンブルをしたり、公然でも妻を虐待する男たちがいる。外国人男性は妻の扱いがいい。男性に選ばれるのが少し怖かったが、ヴェトナムで変な男と結婚するよりはましだ」と語った。<sup>20</sup>

ケース4：35歳の電気技師のジャクソン・リー氏は、恋人を見つけられずに困っていた。「シンガポールの女性は、自分が太りすぎて、醜く、貧しすぎるからか付き合ってくれない」

と彼は言った、彼の体重は180キロで月給は\$2,000以下で安い方だ。しかたなく、彼は仲人代理店を訪ねたが、三つの代理店に断られた。四つ目のミスター・キューピッド国際仲人代理店の紹介で、2004年、千人のヴェトナム人女性の中から22歳の妻ヌーエン・ティーコム・ナンさんを選んだ。二人の間に生まれた九ヶ月の娘のシーリンちゃんはとても可愛い。彼は言った。「今は人生のゴールがある。何のために一生懸命働いているのかもわかっている」彼は彼の両親の公団住宅でインタビュー中にこう語った。「自分たちの場所がほしい。経済的に許せば、もう一人子どもが欲しい。以前、自分たちの結婚が長続きするか心配だったが、今は経済的に子どもを育てられるか心配している」

「母親になることが最初は怖かった。何も知らなかったから」と言うヌーエンさんは赤ん坊の世話や家事手伝いをする生活だ。彼女の姉もシンガポール人と結婚しており、訪ねてきてはヴェトナム料理をしてくれるので、ホームシックにはあまりならないという。

彼は仕事から帰ってくると、二人で散歩するという。彼は言う。「皆、外国人との結婚に批判的だが、僕は毎日仕事を終えて妻と娘にあうのが待ち遠しい。いつも、そんな生活がしたいと思っていたが、そんな夢が現実になるとは思ってもいなかった」<sup>21</sup>

ケース5：64歳の中国系シンガポール人のファンケット・テングは2006年10月20日、ヴェトナム花嫁国際仲人代理店に行った。彼は離婚していると言い、前金の\$10,000と書いた小切手<sup>22</sup>を代理店に渡したが、\$10,000ではないと気づかれず、数日後21歳のヴェトナム人女性を外に連れ出すことに成功した。彼は女性を結婚登録所に連れていき登録の日の予約をし、それを結

19 *The Electric New Paper*, Jan 1, 2006

20 *The Sunday Times*, Jan 1, 2006

21 Chong Kong Ho, *An obese man who could not find a*

*girlfriend in Singapore*, *The Sunday Times*, Jan 1 2006

22 \$10,000のように数字にドットを入れると銀行では受け付けてもらえない。

婚登録と誤解させ、すでに結婚したのだと信じ込ませホテルに6日間泊まり、9回もコンドームも使用せずに性交渉を強い処女を奪った。たまに、彼は女性を動物園などに遊びに連れて行った。それをハネムーンと誤解した。29日にホテルを出て、彼女の残りの荷物を代理店に取に行かせ、後でショッピング・センターの入り口で会う約束をした。彼女と代理店のスタッフが一緒にテングに会いに行ったが現れなかった。

11月8日に、彼はまた別の仲人代理店に行き、同様の方法で女性を連れ出した。しかし、後のボスの命令で、女性をすぐに返すように言われた。彼は文句も言わず、その通りにした。彼が去ってから、彼が書いた小切手の数字が\$10,000になっていることが判明した。数日後、彼はまた他の代理店に行ってアルバムから女性を選んだが、女性はまだ中国から来ていなかった。その後すぐ、彼はヴェトナム花嫁代理店の通報で警察に逮捕された。後に、男は月給が\$3,200以上あると言っていたが、実際は\$1,700しかなかった。

彼の妻は10年前に亡くなったと言っていたが、それは全くの嘘だった。元気な56歳の妻によると、彼らはビーシャンの公団に住んでいたが、長い間会話はしていないという。彼は同じ年の8月に刑務所を出たばかりだった。テングの妻によれば、彼は以前バス・コンダクターとして働いていたが、無責任な男で、二人の子どもを養いもせず、彼女が掃除などの仕事をして子どもを育てたという。「彼は父親として何もしたことがない。家族のために金を使ったこともない」同じ部屋に寝てはいたが四年前に話すのもやめた。この事件に手を染める直前、7月14日、彼は湯を愛人にかけた罪で、二ヶ月間刑務所に入っていた。釈放されてすぐヴェトナム

人花嫁に近づいた。裁判官が女性にセックスを強要した残酷性をしかりつけると、彼は微笑んだがすぐに、通訳を通じて裁判官に訴えた。「軽い刑にしてください。もう一度チャンスをお願いします。私が悪いのは分かっています」<sup>23</sup>

犯人の男性は四年半の刑を受け、犠牲者の21歳の女性は、騙されおもちゃにされたというトラウマから、数ヶ月の間にゆっくり回復し語った。「警察が犯人を逮捕し、刑に処せられたと知り、もう一度シンガポールに戻り結婚したいと思う。かなり傷ついたが、まだシンガポール人男性に対する信頼を完全には失っていない」

ヴェトナム人花嫁仲人代理店の話によると、このケースが初めて失敗したケースだという。裕福な地域に住んでいたため、男が本当のことを言っているように見えたのだという。毎週五、六人の疑わしい男性を見かけるがすぐにおかしいと分かるという。<sup>24</sup>

ケース6：オーストラリアでデザインを勉強してBAの学位をとり、インテリア・デザイナー一件非常勤講師として働いている42歳のシンガポール人男性ヨー氏は語った。「シンガポールの女性とデートするのに、太めで身長が150cmしかないのは、かなり不利だ。女性たちがハンサムな男性を探し・・・それで、僕は外国人花嫁を探す高学歴男性の側に加わった」「鏡を見て、自分はすでに年を取り始めていると自分に言い聞かせた」それが結婚相手を探すきっかけだったらしい。彼は2005年ライフ・パートナー仲人代理店に行き、23歳のヴェトナム人女性と結婚した。彼女の名前はルー・ティー・チャムという。それまで彼女はヴェトナムの露店でサトウキビやボピヤ（春巻き）を売っていた。2006年にインタビューをしたときには妊娠四ヶ月だった。ヨー氏は彼の73歳になる母親と自分

23 *Bride for sex scam: man tricks agencies with dud cheques*, The Straits Times, Nov 23, 2005

24 Dawn Chia & Sim Chi Yin, *Hurt, but still hopeful*, The Electric New Paper, Jan 1, 2006

の世話をしてくれる女性が欲しかったのだという。<sup>25</sup>

ケース7：ヴェトナムのNGO、ヴェトナムの悲惨な状況にいる女性のための活動<sup>26</sup>という団体のディレクターによれば、最近、密出国させられた4人の女性を助けたという。ディエンはそのうちの一人だが、ヴェトナムのテーニン地方の出身で、シンガポールの男性を紹介してもらうために490ドル払ったという。もし、夫が見つからない場合は、両親が帰国費用を払わなくてはならないと言われた。2005年の11月、彼女はシンガポールに行くはずだったがマレーシアに連れて行かれ、10日間、夫を探すためにあちこち連れまわされた。ある日、27歳の男性が代理店に25,000RM（\$10,800）払い彼女を「一週間の試し」として家に連れていった。ディエンは仮の夫と一緒に昼も夜も働かされた。しかし、家族に送金することは拒まれ、彼女が帰りたいというと、代理店に払った金を返さない限り家には帰らせないと言われたが、ついに逃げることができた。彼女はそのとき、妊娠4ヶ月だった。結局、彼女の悪夢はホーチミン市で中絶をして終わった。<sup>27</sup>

## 12. 外国人花嫁ビジネスの中での女性の扱われ方

ヴェトナム人花嫁仲人ツアーは、最近までシンガポールやマレーシアの男性の中で流行っていた。ツアーで訪問した村では、医師による処女証明書をつけた女性が物のように展示されていた。男性たちが何人もの女性を見て花嫁を選んでいった。今はブローカーが彼女たちをグループごとに、カンボジア、タイ、マレーシアを回

ってシンガポールに運んでくる。彼女たちは、よりよい生活を求めて国から国へ、代理店から代理店へと夫を求めて移動する。結婚しない選択肢はないので、花婿が見つかるまで移動する。このサービスの責任者の男たちは「仲人」と自分たちを呼ぶが、人権団体は彼らをブローカーと呼んでいる。

マレーシアを中心に仕事をしているブローカー男性によると、彼らはヴェトナム人女性を物のように仲人代理店に委託するという。代理店は女性たちに夫が見つかったときだけブローカーに金を払う。結婚できなかった女性は売れ残り商品のようにブローカーに返される。そのためシンガポール側は何も失うものはない。ツアーをくむ必要もない。彼らは女性に食べ物と宿を提供すればいいだけだ。<sup>28</sup>

シンガポールの代理店オーナー、ピーター（仮名）は5年間以上、このビジネスをしている。毎回、彼は十人から十五人のヴェトナム人女性を連れてくる。ピーターは村の両親に金を払い女性たちを連れてくるという。その女性たちを車に乗せ、必要なトラベル書類を用意し、マレーシアからシンガポールまで誰かに運転を頼むのに数日かかる。彼は入管で女性たちが足止めされないように手を打つという。一人の女性がマレーシアまで来るのにかかる費用は75RM（\$33）だが、仲人代理店には1人6,000RMで提供していた。結婚相手が見つかるまで、いろいろな事務所で女性たちを見せるという。代理店では、仲人料金を好きな額に設定できる。値段は\$5,000から\$10,000だが、半分以上は代理店の利益になる。

ピーターは、「魅力的なビジネスだ。売れ残りが返せるなら安上がりだしね。しかし、倫理

<sup>25</sup> *The Sunday Times*, Oct 1, 2006

<sup>26</sup> この女性団体の名前は英語でActing for Women in Distressing Situation in Vietnamという。

<sup>27</sup> *The New Paper*, Dec 26, 2006

<sup>28</sup> *The New Paper*, Dec 26, 2006

的に言えば、これは非人間的なやり方だ。女性たちはモノか動物のようだ」と苦笑した。

### 13. 様々な問題点

11のケース・スタディ1と2では、男性の人生計画に合うような女性を妻にして、デートに時間と金を使わず、家族作りがしたいと言っている。男性は相手を理解する努力もせず、妻が夫側に合わせるということを前提としている。ケース3も、自国の女性は自分の両親と住みながらないし、生活習慣が合わないから、外国人花嫁を探したと言っている。しかし、彼は女性にも両親がいることを忘れ、女性は男性の家族と住むべきだと身勝手な封建的な考えを持っている。封建的家族観を引きずっているシンガポールの男性と欧米の男性の態度を比べると違いが顕著だ。33歳のオーストラリアの男性マテューはIT会社のマネージャーだが、31歳のシンガポールの女性シシリアと知り合い結婚した。彼は言う。「彼女は知的で世界で何が起きているかを知っている。仕事も優れている。僕は従順な女性に興味がない」彼が妻と平等な関係を求めているのがわかる。ケース4は、相手が見つからないほど太った男性が結婚できたことに感謝しているようで問題がないように見えるが、不平等な関係に変わりはない。

ケース5の64歳の男が代理店と21歳の女性を騙して連れて行き、結婚したかのように振る舞い、ホテルで何度も性交渉を強要した後女性を捨てた事件は、いかに女性が商品として扱われているかを如実に示している。この男性が支払いの小切手に\$10,000ではなく\$10.000と不正に書いたことが問題になっているが、もっと問題なのは、前金の\$10,000を払うだけで、女性を連れ出し、自由にできるシステムだ。祖父のような年齢の男性が、前金を払えば、孫のような年齢の娘を自由にでき、娘も嫌だと拒否するこ

となく、ついて行きされるままになるのはなぜか？それは、男性が経済的に豊かな国の人で、彼と結婚すれば、女性はビザが取れ、最終的には永住権が取れ、働いて自国の家族に送金できるからだ。このような結婚が平等な関係を作り出せるはずはない。

ケース6のシンガポールでは相手が見つからないという42歳の男性が、もう年だと感じ、代理店を訪れ、73歳の母と自分の世話をしてくれる妻を捜した。そして、23歳のベトナム人女性と結婚した。つまり、男性はメイド、性の相手、子孫繁栄の三つの目的を果たしてくれる女性を見つけたのだ。その代わりに、女性はベトナムにいるときより、経済的に豊かな生活ができ、ベトナムに残る家族に送金ができるだろう。これは国際結婚と呼ぶよりは、海外出稼ぎ労働とか海外移民労働とでも呼んだ方がよさそう。

ケース7のように、男性が少しの前金を払い、「一週間の試し」と称して、女性を連れて行き、性の吐け口や労働者として使うのは、明らかな人権侵害だ。

外国人花嫁仲人代理店は、商品的立場の女性を早く結婚させて儲けたいため、従順、忠実、エロティックなどの言葉を並べて、花嫁を男性に薦める。花嫁が誰も手をつけていない商品のように、処女であることを売り物にして受身な性的対象としての女性像を作り出している代理店もある。それは、男性の女性に対する見方に影響する。非現実的な女性のイメージを信じ込まされた男性と花嫁に結婚後問題が起こる可能性がある。

消費者側の男性と外国人花嫁との民族的違いや、経済的、教育的、年齢的差は従属関係を作り出し、シンガポールにいる外国人花嫁を孤立させ、危険な状況に置く。

言語と文化によるコミュニケーションの問題がある。優位な立場を意識してか夫は妻の言語

を学ばないため、意思の疎通ができなかったり、花嫁が母国語で話せる機会を持てず問題が発生する。

仲人代理店は外国人花嫁にあらゆる個人情報を提供するが、消費者側の夫が登録しても、経済的手段、健康状態、結婚状態、犯罪記録を含む消費者側の夫に関する必要な証明書などを全く提供させずに花嫁を紹介し、危険な状態にさらしている。

花嫁は自国の家族に送金しようとしたが問題になったことがある。夫の月給が\$1,700しかないのに、妻が毎月\$1,000の小遣いを要求したため、数ヶ月のうちに追い出されてしまったのだ。花嫁はシンガポールの男性に大きな夢を描いて結婚したが、夫の経済状態を初めから知らされないで、このような期待と現実とのギャップが問題を起こしてしまう。同じ理由で、次のような問題も起こる。

入管上、外国人花嫁がシンガポールに入るには、有効な入国許可や旅券が必要だ。発展途上国の外国人花嫁にとって国際結婚は、この国に移住する唯一の方法である。女性たちの多くは、学歴も低く専門職にもついていないのでシンガポールに移住するための条件に当てはまらないのだ。長期訪問ビザを取るために夫がスポンサーになり、申請者の結婚証明書、夫のID（身分証明書）、夫と申請者の最高学歴証明書、夫の雇用関係書類、月給の額、夫の過去三年間の所得税証明書、夫の年金（CPF：給与から差し引かれる）の過去12ヶ月の月額支払い証明書と申請者の有効な旅券と申請書を提出する。<sup>29</sup>入管は、夫が妻をサポートできる経済的手段をもっているかどうかを見るが、これは結婚が公的に認められてから明らかになるので、法的結婚はできても、入管により夫が経済能力がないと判

断されれば、花嫁はシンガポールに住むことができない。訪問ビザか短期ビザでシンガポールにきた多くの花嫁は、結婚後、長期ビザから永住権に切り替えるが、夫が経済的に彼女を扶養できなければ、帰国させられてしまう可能性がある。

よりよい生活を求めて、見知らぬ土地で見知らぬ男と結婚した外国人花嫁が、自分の家族から離れている状況では、保護される場所がなく危険だ。ライフ・パートナー仲人代理店のオーナーは言う。「言うことを聞かないと、ビザの延長をしないぞと脅かしたりし、女性を精神的に虐待する夫もいる」

外国人花嫁ビジネスの取り締まりの唯一のものは、入管法を通しての間接的なものだけだ。家族法における保護や規定管理も欠如している。正式な契約もなく花嫁に対する援助や支援などは不十分で、不安定な状況を作り出している。

移住してきた女性に十分な知識と権利を与えず、男性に十分な質問もせず、証明書も出させず、短期間に見知らぬ男性と結婚させることは女性の基本的人権を傷つける。女性は、シンガポールの女性の「安い代用品」として扱われ、虐待される恐れにつながる。2005年11月、ある外国人花嫁が10年間の結婚で、夫の精神的肉体的暴力に苦しんできた。一時的にシェルターに移ったが、彼女が帰宅したときに夫に殺害された。似たような虐待のケースが報告されている。花嫁は永住権が出なくなるという恐れと、家族のサポートがないために虐待を報告しないことが多い。

若すぎる花嫁たちは十分に遊んだり、学んだり、自己実現するチャンスがなく、結婚し、出産し、子育てをする。しかも、相手はかなり年

29 結婚のための必要書類については、シンガポール政府のサイトでも見ることができる。Latest be hauled

up, The Straits Times, Nov22, 2006

上の男性で、楽しみを共有することは難しい。それにより、欲求不満がつのり、家出、離婚、子育て放棄という問題が起こる可能性がある。また、子どもが青年期になり、父親が年取っているため、子どもをコントロールすることができず、息子の家庭内暴力を招く恐れもある。

外国人花嫁ビジネスにおける他の問題もある。それは外国人花嫁と消費者側の夫との便利結婚だ。男性が法的に夫の役目をはたして金を受け取る偽造結婚もある。入管でビザを取るために、夫が花嫁のスポンサーになり、その後花嫁は売春に関わるケースもある。

#### 14. おわりに

英国による植民地支配後のシンガポール社会は、多文化、多言語、多宗教社会を形成しており、物理的に異文化間の結婚がしやすい状況にある。また、外資系企業依存の経済体制にあることから、海外からシンガポールに派遣される人々も多く、現地の女性が欧米の男性と結婚する数も増えている。

エリート層の働く女性たちは、自分と同等の社会的経済的地位かそれ以上の地位の男性を求めている。その結果、欧米の男性と結婚するか、エリート層の男性と結婚するか、独身のままでいる女性が多い。

シンガポール社会は世界でも物価の高い国である。その背景には生活用品の多くが自国では生産されずに輸入され、課税されるということがある。リー・クワンユー元首相が推し進めた公団制度が人々に住の確保を提供したものの、近年、中国やインドネシアからの富裕層の移住などの影響でその値段は高騰している。コンドミニアムは想像を絶する値段に跳ね上がっている。そのため、夫婦が働かないと家族全員を養えず、自分の家を持つことは難しくなっている。そのような共働き夫婦で子どもがいる家庭で

は、賃金の安い外国人メイドを雇うのが一般的だ。

このような状況下で、シンガポールの男性は、発展途上国から弱い立場の若い女性を配偶者として選ぶ機会を与えられた。それは外国人花嫁仲人ビジネスにまで発展している。

アジアの国々から来る外国人花嫁たちの多くはよりよい生活を求め、結婚しシンガポールへの移住を果たす。彼女たちは、シンガポールだけではなく、香港、欧米、日本、タイ、韓国など世界へと花婿探しに行く。つまり、貧しい国の女性たちが、経済的に豊かな国の男性と結婚するという構図になっており、それは、貧富の差、経済格差に原因がある。これはまさしく南北問題であり、出稼ぎ労働者問題、移民労働者問題である。しかし、中年や年老いた男性と十代や二十代前半の若い女性との不自然で不平等な結婚は大きな性差別問題でもある。

莫大な仲人費用のほとんどを男性客が払うことにより、女性が代理店から買われたというイメージがつきまとう。実際、代理店は女性を「商品」として、なるべく価値のあるものとして売ろうとする。代理店は、男性客にはほとんど質問せず、聞いたことは証明書もなしに信じ、必要な費用だけもらうと外国人花嫁を渡してしまう。それは消費者側の男性が金を払い、商品側の女性を買われる立場であることを明白に示している。

貧しい国から来る外国人花嫁は、夫とは年齢、経済、教育レベルなどでもかなりの格差がある。それは不平等な関係やコミュニケーション問題を作り出し、夫への依存、従順、ひどい場合は、夫の妻への精神的、肉体的暴力や虐待につながっている。それでも、女性が離婚されることを恐れ、誰にも言わず、夫に殺害された例もある。

シンガポールの女性団体は、このような不平等な結婚により女性が危険な状況に置かれるの

を助けるために、仲人代理店を取り締まる法的整備、女性への援助などをしようとしている。確かに、そのような支援は必要だ。しかし、それだけで十分だろうか？

この問題はシンガポールに限ったものではなく、世界が南北に分断され、経済格差が激しい状況の中で繰り返されている。日本でも、一時期、地方の男性がフィリピンから花嫁を探すということが問題になっていたが、このような不平等な国際結婚は今では低所得層の男性から一般の男性にまで広がっている。また、最近では、日本の女性と欧米の男性との結婚が増加しており、国際結婚の傾向は男女共にシンガポールの状況と似ている。

不平等な関係から起こる問題を防ぐには、この問題を広く人々に知ってもらい、法的な整備だけでなく、援助が必要な女性を助けられる女性組織の国際的ネットワークをつくり、犠牲者側の女性たちの権利意識を高めつつ、このような人身売買に近い花嫁ビジネスに国際的レベルで抗議し、反対していくことが不可欠だろう。また、国と国との経済格差を埋めていく努力も必要だ。このように、外国人花嫁ビジネス問題は、女性問題から移民労働者問題などの南北問題まで幅広く考え、長期的取り組みをしなければ、ただの穴埋め作業に終始し、解決しないだろう。

## 参考文献

- Arti & Simlinoi, *Just another kind of matchmaking*, The Straits Times, Dec, 2006
- Aware, *Beyond Happily Ever After: Making a Match Between Singapore Grooms and Foreign Brides*, Aware, Nov, 2006
- Aware, CEDAW Shadow Report, Aware, May, 2007, pp,33,37,43,55,59
- Beelay May, *I was duped in a sex slaves scam*, The Electric New Paper, Jan 16, 2006
- Chia Dawn, *No Need to Pay High Dowries*, The Electric New Paper, Jan 2, 2006
- Chia Dawn, *Have a child in a year \$1,000*, The Electric New Paper, Feb 20, 2007
- Chia Dawn, *Most get pregnant within a year*, The Electric New Paper, Jan 10, 2006
- Chia Dawn & Yin Sim Chi, *Hurt, but still hopeful*, The Electric New Paper, Jan 1, 2006
- Chia Dawn, *The New Paper*, Dec 26, 2006
- Chia Dawn, *They move brides like goods*, The New Paper, Dec 26, 2006
- Chong, *Latest be hauled up*, The Straits Times, Nov 22, 2006
- Hanqing Liew, *I cannot find my hubby*, The Electric New Paper, Jan 20, 2006
- Hian Leong Sze, *Don't penalize foreign wives*, Today, Dec 19, 2005
- Ho Chua Kong, *Man who could not find a girlfriend: Now baby makes three*, The Sunday Times, Jan 1 2006
- 『華字紙—聯合早報』2009年6月18日
- Lian Goh Chin, *Why foreign brides are hot...*, The Sunday Times, Oct 1, 2006
- Muichand Elena Arti, *Vietnam Brides' Huge Gamble*, The Sunday Times, Nov 27, 2005
- Paulo A. Derrick, *Looking overseas for love*, Today, Dec 13, 2005
- 『シンガポールのメイド事情 That's Shibata Town—シンガポールからの手紙』  
[www.jet.ne.jp/^seto3104/sigpo/sp13.htm](http://www.jet.ne.jp/^seto3104/sigpo/sp13.htm), 2008
- 『シンガポールの歴史』『ウィキペディア フリー百科事典』2009
- Singh Khushwant & Sua Tracy, *Bride for sex scam: man tricks agencies with dud cheques*, The Straits Times, Nov 23, 2005
- The Electric New Paper*, April 17, 2007

『2007年データブック・オブ・ザ・ワールド』

二宮書店、2008

Yong Tze. Ng, *I followed her bedroom, yet...*,

The Electric New Paper, Jan 3, 2006